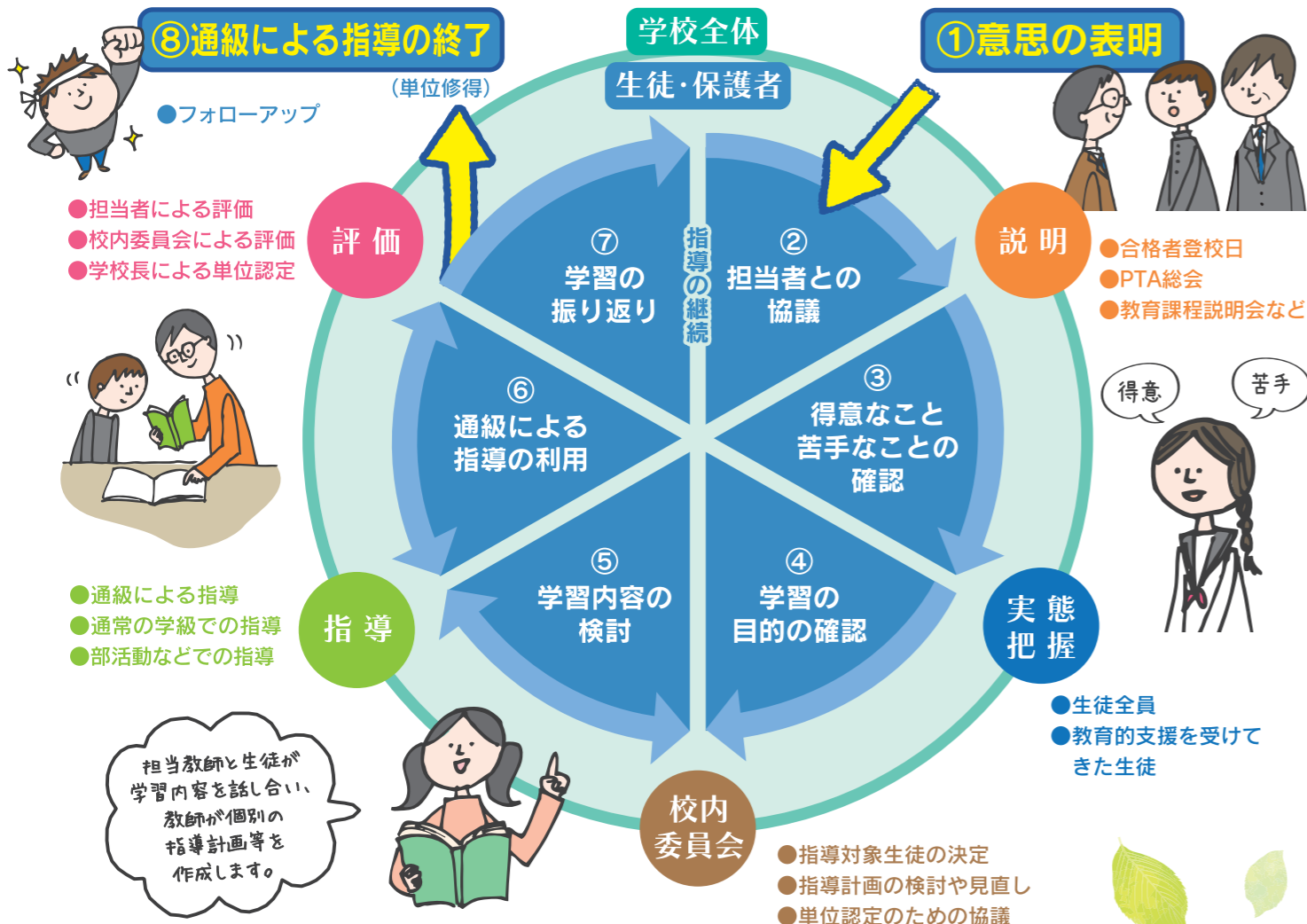


指導の流れ



教育課程の編成

高等学校の教科・科目の時数等は各学校が編成するため、「通級による指導」の時数等も学校や学科、学年によって異なります。

授業時間内に行われる指導

普通科の生徒の例

	月	火	水	木	金
1	国語総合	数学ⅠA	物理基礎	生物基礎	国語総合
2	数学ⅠA	社会と情報	英語Ⅰ	国語総合	体育
3	芸術Ⅰ	英語Ⅰ	体育	家庭基礎	社会と情報
4	芸術Ⅰ	体育	国語総合	家庭基礎	現代社会
5	物理基礎	生物基礎	数学ⅠA	英語Ⅰ	英語Ⅰ
6	通級	国語総合	現代社会	数学ⅠA	通級
7		総学	保健	LHR	

職業系学科の生徒の例

	月	火	水	木	金
1	数学Ⅰ	現代社会	現代文B	保健	現代社会
2	体育	専門選択Ⅰ	コミュ英Ⅱ	専門選択Ⅰ	情報処理
3	野菜	科目選択A	情報処理	科目選択A	数学Ⅰ
4	現代文B	数学Ⅰ	情報処理	野菜	現代文B
5	生物基礎	通級	家庭総合	実習	生物基礎
6	コミュ英Ⅱ	通級			体育
7					LHR

授業時間外に行われる指導

放課後、その他の例

●放課後

	月	火	水	木	金
放課後	課外	通級	課外	課外	課外

●長期休業期間
1・2限:課外 3・4限:通級

「通級による」指導は、在籍校が定めた全課程の修了を認めるために必要な単位に加えることができます。

ただし、1年間に受けることができる最大の時数や、小・中学校と異なり必修科目や総合的な探究(学習)の時間を「通級による指導」の時間に替えることができないなどの制限もあります。→Q9



「通級による指導」を生かす校内体制

校内体制のイメージ



「通級による指導」を通常の学級や日常生活に生かすために、学科や学年、学級等の全体の生徒を対象とする指導支援から個別の指導・支援へつなく校内体制を構築することが重要です。

宮崎県の各拠点校では、左図のような校内体制の構築をイメージしながら取り組むよう努めており、学習環境の改善や分かりやすい授業づくり(授業のユニバーサルデザイン化)などや、複数の指導者での「通級による指導」の実践が始まっています。

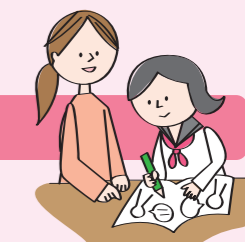
多くの教職員が関わることにより、「通級による指導」が授業や学校生活で生かされ、生徒の変容が期待されます。



指導の内容

「通級による指導」は、個別に指導内容を設定して指導を行います。

個々の特性や教育的ニーズを踏まえた指導



〔先進校の例〕

○自己理解
得意なこと、苦手なこと、10年後の自分などについて整理

○暗黙の了解の理解
生活場面でのやりとりをイラストで示し、やりとりに必要な言葉を予測

○認知機能の強化
学び方の学習や認知の力を高めるトレーニング

キャリア教育との関連づけ(長期休業期間中など)

〔指導例〕

・大学のオープンキャンパスや企業見学等への参加に係る学習
・職業生活について(将来の仕事について考える)

・インターンシップへの参加に係る学習
・上手な依頼の仕方、断り方